

地球の未来のために

奈良市立富雄第三中学校三年

堀井 琴美

私が住む奈良市では、木津川の水を浄水場で綺麗にしたものが水道水として使えるようになっていきます。水を安心して使えるのは当たり前のことではなく、仕事として設備を支えてくださる方々がいるからです。そして、それ以前に、水がなければ、私たちの生活は今では考えられないほど不自由なものになると思います。

私が水の大切さを改めて実感したのは今年の初めです。一月上旬に雪が降ってから、雪や雨があまり降らないなど思っていました。このことに対しては、冬だから乾燥しているな、雨はテンションが下がるから雨降らないで欲しいなど考えていました。しかし、ニュースで日本全国で記録的な少雨による水不足が問題になっていると報道されていました。これまで災害が起きて断水が続き、水不足になるといった事例は耳にしたことがありましたが、雨が降ら

ず水不足になるということとは、私の中ですぐに結びつきませんでした。理科で学習したことや、今までの経験から少し考えれば分かることでしたが、生活に必要な水がどうやって私たちのもとに届いているのか、自らの生活に結びつけて考えられていなかったのです。

ニユースでは、普段なら水が溜まっているはずのダムの底が見えているという内容が報じられていました。実際のダムの様子も目にし、事態の深刻さを感じました。そのダムからの水を使っている地域では節水が呼びかけられていました。そこで、十分に使えている私が無駄遣いをするわけにはいかない、と私も節水を心がけようと決意しました。

いつもは、朝、洗顔をするときに、蛇口から出てくる水がお湯になるまで出しっぱなしで待っていました。待っている間に流れていつてしまう水がもったいないと思い、冷水で顔を洗うようにしました。冬だったのでとても寒く、やっぱりお湯にしようかなと気持ち揺らぎ

ましたが、そんな気持ちをは堪えて洗いました。

他にも、お風呂ではたぐさんの水を使います。なので、たぐさんの工夫ができます。例えば、髪の毛、顔、体を洗うときに、石鹸を洗い流すのをシャワーだけを使うのではなく、湯船のお湯も、シャワーも使うようにし、使用するお湯を少なくしようと心掛けました。湯船はおよそ二百リットルのお湯を使用します。節水をしなければならぬ状況では、湯船に浸かることは難しいと思います。もしかしたら、ニュースで見たあの地域の人たちはこの寒い日が続く中、湯船に浸かることができていないのかもしれないと思うと、少し心が痛みました。なので、私には私ができることを、と思い、湯船のお湯をできるだけ無駄にしないよう努力しました。

今回、この水不足が問題になつて思つたことは、ニュースや新聞などで報じられていることを他人事ではなく、自分にも関係のあることだと思ふのが大切だということです。自分に関係のないことに対して、積極的に取り組めない人

は多く、私もその一人です。しかし、今回のことであると、水という生きていく上で必要不可欠なものについて考えてみると、全員に関係のあることなので、行動を起こせるのではないかと思います。未来はまだ決まっていません。今、努力することに変えられるので、小さな努力を積み上げて、明るい未来を広げていきたいです。